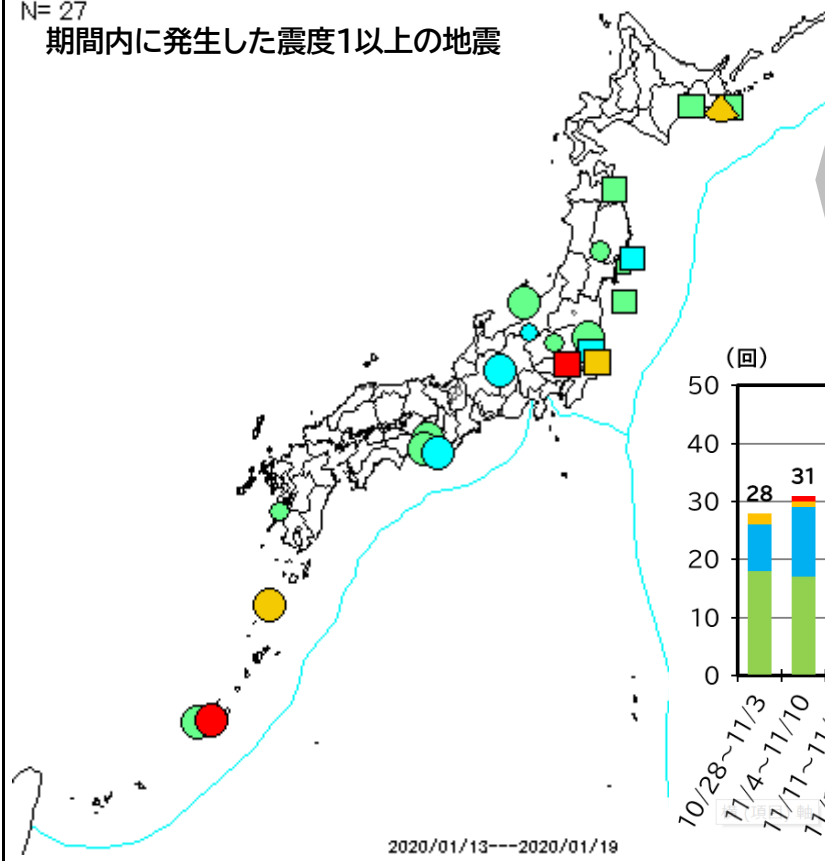


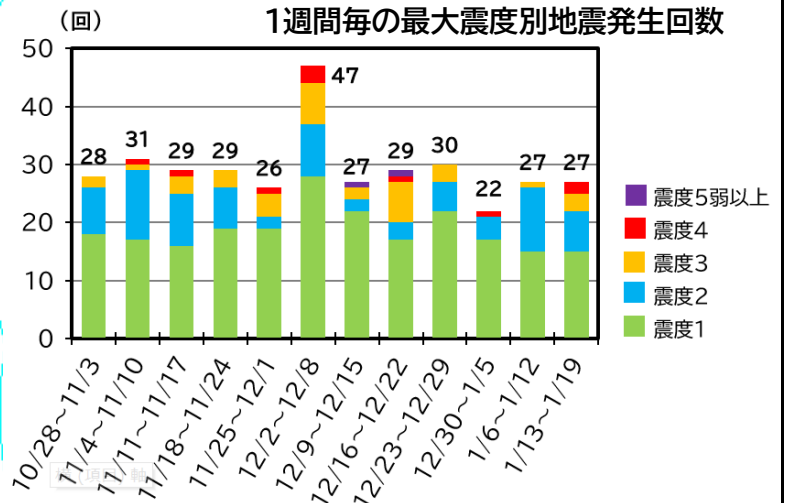
この期間の最大震度は4

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)

N= 27
期間内に発生した震度1以上の地震



最大震度	マグニチュード	深さ(km)
震度5弱以上	7.0	0
震度4	5.0	30
震度3	3.0	90
震度2		
震度1		



主な地震の発生状況

- この期間、震度1以上の地震が27回発生。このうち震度4が2回 ■
- ・14日04時53分に発生した茨城県南部の地震(M4.8、深さ46km)により、茨城県、栃木県、群馬県及び埼玉県で震度4を観測。この地震はフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した逆断層型。この付近は定常的に地震活動が見られる場所。
- ・16日18時36分に発生した沖縄本島近海の地震(M4.2、深さ14km)により、沖縄県恩納村で震度4を観測。この地震は陸のプレートの地殻内で発生。

トピックス

- 阪神・淡路大震災から25年 余震の発生状況など ■
- ・1995年1月17日 午前5時46分に発生した兵庫県南部地震(最大震度7:阪神・淡路大震災)から25年が経過しました。初めて震度7が適用された地震です。
- ・この地震を契機として地震観測網の整備、機関の壁を越えた観測データの流通、情報の高度化などが図られるようになり、地震防災体制が飛躍的に発展しました。
- ・また、大規模災害が発生した場合における公助の限界が指摘され、災害発生時には自分の身は自分で守りながら近所の人と助け合う「自助・共助」という考え方が市民権を得るきっかけとなった災害であると言えるでしょう。
- ・図は25年間の余震(図1の破線内)の発生状況です。

兵庫県南部地震発生以前は1年に数回でしたが、近年は、兵庫県南部地震発生前と比較してやや多い程度で推移しています(図2)。2013年に多くなっているのは、2013年4月13日の地震(M6.3)の影響です。

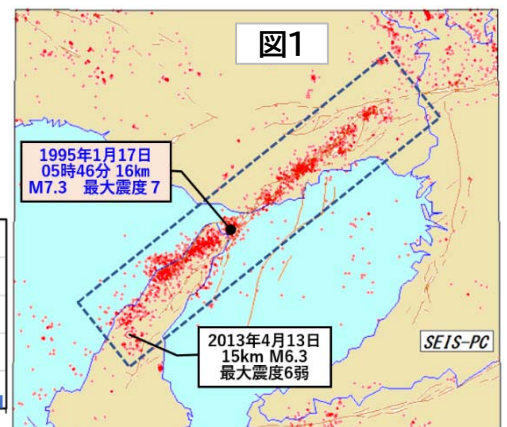
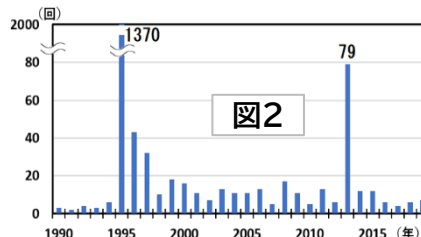


図1:震央分布図:1995年1月1日~2019年12月31日 深さ0~20km, M≧2.0

図2:図1の破線内の年毎の地震回数表:1990年~2019年 深さ0~20km, M≧2.0